

今日のトピック 米国の金融政策は利上げを継続（2018年9月） 景気および労働市場は緩やかな利上げの持続を正当化

ポイント1 政策金利を0.25%引き上げ 全会一致の決定

- 米国の連邦準備制度理事会（FRB）は、9月25日～26日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利であるフェデラルファンド（FF）レートの誘導レンジを0.25%引き上げ、2.00%～2.25%とすることを決定しました。

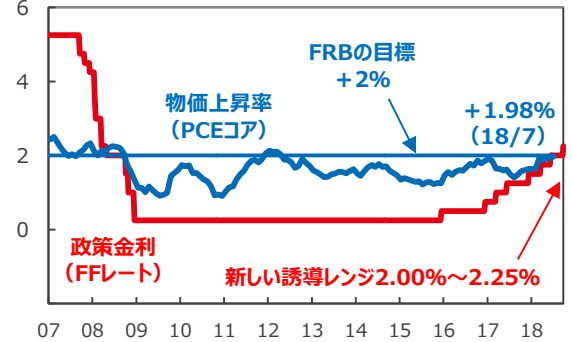
ポイント2 声明文は前回とほぼ同じ内容 「依然として緩和的」との文言は削除

- FOMC声明文は、前回とほぼ同じ内容でした。経済については、「力強い速度で成長」、物価については、上昇率が「+2%近くにとどまった」との評価を据え置いています。
- 唯一の変更点は、「金融政策の姿勢は引き続き緩和的」との文言が削除されたことです。この点について、パウエルFRB議長は、FOMC後の記者会見で、「今後の金融政策の経路に関して、何らシグナルを示すものではない」と述べました。
- 参加者による経済見通しは、18年と19年のGDP成長率が上方修正されました。18年の失業率は上方修正されましたが、小幅な修正にとどまっています。

今後の展開 緩やかな利上げが継続される見通し

- 今後の金融政策の方向性については、従来通り「経済及び労働市場の情勢は、さらなる漸進的な利上げを正当化する」と述べました。FOMC参加者の経済見通しから推測される中立金利が3%前後であることと合わせて考えると、FRBは3%を目処に緩やかな利上げを継続すると考えられます。
- 26日の米国市場では、債券利回りが低下しました。FOMCでは利上げが決定されたものの、市場では既に織り込み済みだったこと、利上げの速度が今後、加速するといった内容は含まれていなかったこと等によるものです。株価も一時は上昇しましたが、長続きせずFOMC後は下落に転じました。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFLレートは2007年1月5日～2018年9月27日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2018年7月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2018年	2019年	長期
GDP成長率	9月	3.1	2.5	1.8
	(%)	6月	2.8	2.4
失業率	9月	3.7	3.5	4.5
	(%)	6月	3.6	3.5
物価上昇率	9月	2.1	2.0	2.0
	(%)	6月	2.1	2.1
FFレート	9月	2.4	3.1	3.0
	(%)	6月	2.4	3.1

(注1) 開催月は、FOMCで経済見通しを公表した月。
(注2) FOMCメンバーによる予測の中央値。GDPと物価上昇率は10-12月期の前年同期比。物価上昇率は2018年、2019年がPCEコア物価指数、長期はPCE物価指数の上昇率。失業率は10-12月期の平均値。FFレートは各年末時点における誘導レンジの中間値。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2018年9月14日 11月に迫る米『中間選挙』の注目ポイント
2018年9月10日 概ね良好な内容となった米国の雇用統計（2018年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。